
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 381 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2015.08.11 (火) 発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

*****発行部数 1028 部*****

□ 目 次 □-----

<巻頭言> 本当に“強い農業・農村”とは？ 塩谷哲夫

<新刊紹介>

山安富六郎著『武蔵野・江戸を潤した多摩川——多摩川・上水徒歩思考』

<お知らせ 1> 山崎農業研究所所報『耕 No.135』発行されました

<お知らせ 2> 山崎農研編「平成のマドンナ」シリーズ No.8 完成しました

<編集後記> 民主主義ってなんだ！

<巻頭言> 本当に“強い農業・農村”とは？

6月上旬、十数年ぶりに豪雪・棚田地帯で名高い上越市安塚区（旧安塚町）を訪ねた。上越新幹線の越後湯沢で「ほくほく線」に乗り換え、2両連結の小さな電車で、無人駅の虫川大杉で下車した。迎えてくれた車で、山道を菱ヶ岳目指して登って行く。車窓から眺めていると、小黒川沿いの開けたところの水田ではほぼ田植えが終わっていた。

しかし、横道に入って、くねくねとした坂道を上って行くと、棚田が点在している地域になる。棚田はようやく代を掻き終わったところで、まだところどころしか田植えが終わっていなかった。野菜畑は雪の重みに押しつぶされたままの状態、ハウスもまだ組み立てられていなかった。もうすぐ夏が来るのに……。山の斜面にはタニウツギが咲き乱れ、ウグイスやホトトギスの声が空を渡って響いてくる。遠くの妙高連山を仰ぎ見ると、まだ厳かな白い姿であった。……昔とちっとも変わっていない。

世の中、“規模拡大が必要だ”、“強い農業を目指せ”、“農村の所得を倍増する”とか騒いでいるが、ここでは、そんなこととはまったく縁遠い、昔ながらの山村の風景があり、農家の営みが続いているように思えた。

この山村の姿から、私は多くのことを考えさせられている。本当に持続力のある“強い”農業・農村とは何なのか？ 誰が農山村の定住者としてそこで働き、心おきなく暮らしを営むのか？ 農山村の風景には人間の営みと自然が協働してつくり出した独特の温かさがある。日本の原風景ともいべき農山村の環境保全を住民らの営みに任せておくだけでいいのか？

農山村で人々が安心して暮らしていくためには教育・医療をはじめ社会的文化的な環境が必要である。それは、当然、憲法第 25 条*に基づいて、国家が責任をもって予算化し、整備すべきものではないのか。民主的國家においては、国家予算は本来税の負担者である国民が納得して支出先が決定されるものである……はずなのだから。

わが国の農政の基本はあくまでも「規模拡大・経営合理化による強い農業」に重点がある。だが、“強い農業”は、実態的には工業の論理の経営として、一番苦しい農業になるのではないだろうか？ TPP の国境なき大資本のルールに従って、日本の農業・農村、国土環境を崩壊させてよいのか。政府任せではなく、将来のあるべき姿を私たち自身が考え、政府に実行させなくてはならない。

*日本国憲法・第 25 条 1 すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。

塩谷哲夫

山崎農業研究所幹事

yamazaki@yamazaki-i.org

<新刊紹介>

山安富六郎著『武蔵野・江戸を潤した多摩川——多摩川・上水徒歩思考』

「学生時代から歩くことが好きだった」という著者が多摩川河口から源流までの歩き継ぎを思い立ったのは 70 歳のとき。岡本かの子が多摩川について書いた『川』には「水源は水晶を産し、水は白水晶や紫水晶から滲み出るものと思っていた…」とあるが、水源を自分の目で確かめたいと思ったのがきっかけだった。

川沿いに1日歩いたら電車などで帰る、そして次の機会には、前回の到着点から出発する。これが「歩き継ぎ」だ。平場はともかく、源流に近づくにつれ難所も相次いだ。河口から源流までは140キロほどだが、まわり道をしなくてはならない箇所も多く、多摩川から取水される玉川上水をはじめとした古い用水や歴史遺構、神社仏閣にも足をのぼし、最終的には300キロ以上歩いたという。

わが国の水利用の歴史をみるかぎり水田開発が中心であった。ところが関東ローム台地や谷津が組み入った土地条件では、それとは異なる技術が必要とされる。台地開発の技術が従来の水田開発とどう異なるのか、水をめぐる技術がどのように伝承されたのか。現場の事例から見直したいと著者は思った。

多摩川を水源とする用水（上水）は数多い。本書で取り上げている用水（上水）は、二ヶ領用水、六郷用水、府中用水、玉川上水、野火止用水、青山上水、千川上水、三田上水など。玉川上水に先行してつくられた二ヶ領、六郷、府中用水と玉川上水との関係や玉川上水にまつわる秘密（施工期間の短さや取水位置の確定方法）、野火止用水開通の歴史的記述（「用水開通3年説」）についての自説の展開、千川上水、青山上水、三田上水といった今日ではかえりみられることの少なくなった上水の水路位置の推定や、それらがかつて果たした役割の考察など、興味深い記述が随所にみられる。

本書は、河川全域で見聞し、感じたことを記した「第Ⅰ部 多摩川源流を訪ねて」と、多摩川から取水された上水・用水について述べそれら相互の関連、人との関わり、社会の流れを見る「第Ⅱ部 武蔵野・江戸を潤した多摩川の上水・用水」からなる。

まえがきにある「水と土、人間万歳」「水は文化を運ぶ」といった言葉に込められているのは、上水・用水の開発にかかわった職人や技術者への尊敬の念、市井の人びとや農民たちの水とともにある暮らしへの共感であり、本書の基調をなす。多摩川・上水と人びととの関係について歴史的、技術的、文化的にと重層的に描いた本書は、自然と人間の関係を今日的な視点から総合的に捉えなおすうえで格好の書。

©山安富六郎著『武蔵野・江戸を潤した多摩川——多摩川・上水徒歩思考』

<http://www.amazon.co.jp/dp/4540142631>

農山漁村文化協会

A5判・並製・199頁

ISBN-10: 4540142631

ISBN-13: 978-4540142635

1836円（税込み）

◎著者

安富六郎（やすとみ・ろくろう）

1932年、東京都生まれ。東京大学農学部卒業。東京農工大学名誉教授。山崎農業研究所前所長。農学博士。著書に『環境土地利用論』（農文協、1995年）、『身近な水の環境科学』（環境修復保全機構、2004年）、『農地工学』（共著、文永堂出版、2008年）、がある。

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

<お知らせ 1> 山崎農業研究所所報『耕 No.135』発行されました

山崎農業研究所所報『耕 No.135』が発行されました。

ご希望の方には雑誌を頒布いたします。

yamazaki@yamazaki-i.org

までご連絡ください。

《土と太陽と》（巻頭言）

「耕」について考える◎塩谷哲夫

〔第149回定例（現地）研究会〕家族協定による畜産業経営
農業を守り暮らしに生き甲斐を◎小泉浩郎

〔報告1〕生活改善普及活動と家族経営協定◎阿久津加居

〔報告2〕家族経営協定で酪農経営の複合化

—酪農・教育ファーム・牧場カフェ◎人見みみ子

参加者の声◎樋口直美／小林俊夫／熊澤喜久雄／服部朋子／益永八尋

〔第150回定例研究会〕自然災害を考える新たな視点

I 溪流保護から見る土石流災害と砂防問題◎田口康夫

[特別寄稿]

- ・土砂災害にみる災害リスクの回避についての考察◎渡邊 博
- ・広島市土砂災害から森林問題を考える◎大内正伸
- ・キューバの防災対応◎吉田太郎

〈連載〉“生きもの語り”の世界から(6)

百姓仕事の精神性—情愛からタマシイの世界への道／宇根 豊

〈農村定点観測〉

- ・語りつぐシルバーへの途（みち）／茨城県・大河原幸一
- ・「飽食の時代」に思う／長野県・橋戸良知
- ・飼料用米、本格生産の課題／新潟県・吉原勝廣

<お知らせ 2> 山崎農研編「平成のマドンナ」シリーズ No.8 完成しました

山崎農研編集「平成のマドンナ」シリーズ No.8(B5版・30ページ)が完成しました。既発行分も含め、電子版あるいは冊子で頒布しています。送料込み500円です。ご希望の方は yamazaki@yamazaki-i.org までご連絡ください。

(新刊)

No.8 家族経営協定でいきいき人生にトライ

栃木県那須塩原市

酪農・教育ファーム・レストラン 人見みゆ子さん

(阿久津加居聞き書き)

(既刊)

No.1 都市近郊に「オアシス牧場」を

埼玉県上尾市 榎本美津子さん (小井川敏子聞き書き)

No.2 世羅高原のそよ風になりたい

広島県世羅町 井上幸枝さん (後由美子聞き書き)

No.3 むらにまちにこどもたちにふるさとの味を伝えたい

鳥取県鳥取市 西山徳枝さん (小泉浩郎聞き書き)

No.4 働きやすい作業環境の改善

徳島県 藍住地区のお母さん達 (小林徳子聞き書き)

No.5 「奥久慈の味」から広がる出会い

茨城県大子町 齊藤キヌ子さん（臼井雅子聞き書き）

No.6 デパートに進出した農村女性

栃木県宇都宮市 アグリランドシティショップ（阿久津加居聞き書き）

No.7 貧しさに学びこころ豊かに生きる

群馬県嬭恋村 丸山みち子（丸山みち子著）

No.8 家族経営協定でいきいき人生にトライ

栃木県那須塩原市 人見みみ子さん（阿久津加居聞き書き）

<編集後記> 民主主義ってなんだ！

国会前では安保法案反対デモがつづいている。最近注目されているのが「SEALDs（シールズ）」。安保法案をめぐるうごきに危機感をいだいた大学生たちが立ち上げた。最近は高校生たちによる「T・ns SOWL（ティーンズ・ソウル）」や、高齢者が中心になった「OLDs（オールズ）」、中年たちによる「MIDDLEs（ミドルズ）」のうごきもある。そういった目立つうごきだけでなく、全国各地で、それこそ津々浦々で人々が声をあげはじめた。

かつてデモといえば、特定の政治団体や労働組合がやるものとはぼきまっていた。が、こここのところのうごきはちょっとちがう。このながれにあるのが、3.11以降の反原発デモであり、そしていまの反安保法案デモなのだと思う。特定の政治信条をもつわけでもない。しかし、いまの状況への危機感と憤懣は抑えがたく、いてもたってもいられない気持ちに背中を押され、「NO！」の意思表示をする。

民主主義を数の論理と理解（誤解）すれば、こうしたうごきは無駄だろう。与党は衆議院では3分の2以上の議席をしめ、参議院でも半数以上をしめるのだから。しかしまさに老若男女というべき彼ら・彼女らの声を聴いているとまったく違った感慨を覚えるのだ。

「SEALDs（シールズ）」のコールのなかに「民主主義ってなんだ！（Tell me what democracy looks like.）」「これだ！（This is what democracy looks like.）」というのがある。「民主主義って何？」という問い、そして「これ＝おかしいことにはおかしいと声をあげること＝だ」という応答。彼ら・彼女らはそう言葉にしなから、あるいは声に出さずとも、街頭に立ちながらたくさん

のことを思い、考えているのではないか。そんなデモのありように私は、新しくも本来的な民主主義の姿をみる。

2015年08月11日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売

『自給再考—グローバリゼーションの次は何か』

(発売：2008/11 定価：1,575円)

http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/

たくさんのお書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎辻信一さん (文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授)

グローバルの次は何? ~卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん (大地を守る会)

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん (長野県農業大学校教授、執筆者)

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182

◎関良基さん (拓殖大学政経学部)

ブログ：代替案 書評：『自給再考—グローバリゼーションの次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん (イラストレーター・ライター)

ブログ：神流アトリエ日記 (3) 「書評『自給再考』」

<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>

◎ブログ：本に溺りたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>

◎日本農業新聞／書評

(2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優)

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎小谷敏さん (大妻女子大学)

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ (2009/01/31)

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん ((株) 共に生きるために)

月刊とちぎV ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎塩見直紀さん (半農半X 研究所、執筆者)

ブログ：半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう！
立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

- 1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。
- 2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。
- 3、1回1テーマ、10行位に。
- 4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。
- 5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

次回 382 号の締め切りは 08 月 24 日、発行は 08 月 27 日の予定です。

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 381 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2015.08.11（火）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

***** ここまで『電子耕』*****